

## ◇編集後記◇

産業衛生学雑誌第 56 巻に掲載された原著論文の半数、また調査報告のすべてがメンタルヘルスや睡眠に関連したものでした。JOH の方は、original の 1/3 ~ 1/4 程がメンタルヘルス関連です。産業衛生学雑誌は、労働者の健康を守るための研究や活動の成果を発表する場です。したがって、主な話題は時代とともに変化するものと思いますが、メンタルヘルス関連の話題は当面トップの座を譲りそうにもありません。残念ながら、こころの健康を守ることを訴え続けなければならない労働環境が続いています。おりしも、今年度末からメンタルヘルスチェック制度が始まります。方針を定めていない事業所が多いと思いますし、産業保健スタッフからも戸惑いの声が多く聞かれます。過重労働の面接指導が法制化されて約 10 年、今では多くの事業所で“粛々”と進められています。ストレスチェック制度も早晚そうなるのでしょうか。始めるからには、産業衛生に関わるものとしては、この制度を職場改善につなげメンタルヘルス不全の予防に役立つよう、役割を果たしていきたいと思えます。そして、関連の論文が本誌に多く投稿され、この新たな制度の検証の場となることを期待します。

さて、新しい制度が始まるたびに、こうした制度は本

当に隅々まで行き届くのかと心配になります。大企業ではもはや問題とならない古典的な課題を抱えたままの小規模事業所が多くあります。種々の制度の狭間にいる不安定雇用の人々も増えています。フルタイムで働いていても貧困にあえぐひとり親家庭が多くあります。昨年度、金沢にて産業医・産業看護全国協議会が開催され、私も実行委員の一人として企画等に関わりました。本会のテーマは「産業衛生をすべての働く人々と職場に」でした。産業衛生からとり残される職場がないように種々の機関が連携することの必要性はずっと言われてきましたが、まだまだのようです。労働災害も小規模事業所が多く含まれる第三次産業では増えているとのこと。もっと多職種、多機関が協働しこの問題に取り組んでいかなければならないのだと思います。そのためにも、日頃の問題意識に基づく調査研究や活動を論文化していく必要を感じます。論文としてまとめるのはかなりの労力がかかります。私自身、筆が遅く、日の目をみさせないまま眠らせているものが少なくないことを反省しています。きつい査読に胸をえぐられることもあります。ともに役割をはたしていきましょう。

(森河裕子)

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：堤 明純（北里大）

副委員長：柴田英治（愛知医大）

編集委員：市原 学（東京理科大）、今井鉄平（アズビル(株)）、梅津美香（岐阜県立看護大）、榎原 毅（名古屋市立大）、大神 明（産業医大）、大塚泰正（広島大）、影山隆之（大分看護大）、小島原典子（東京女子医大）、挂本知里（東京有明医療大）、上島通浩（名古屋市立大）、萱場一則（埼玉大）、車谷典男（奈良医大）、近藤尚己（東京大）、榊原久孝（名古屋大）、佐々木美奈子（東京医療保健大）、島津明人（東京大）、須賀万智（東京慈恵医大）、杉森裕樹（大東文化大）、諏訪園靖（千葉大）、高尾総司（岡山大）、巽 あさみ（浜松医大）、田中 茂（十文字学園女子大）、玉腰暁子（北海道大）、中田光紀（産業医大）、中村裕之（金沢大）、西田和子（久留米大）、野見山哲生（信州大）、原田浩二（京都大）、平工雄介（三重大）、廣 尚典（産業医大）、藤野善久（産業医大）、堀口兵剛（北里大）、三宅達郎（京都市保健福祉局）、毛利一平（ひらの亀戸ひまわり診療所）、森岡郁晴（和歌山医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（岡山大）、大和 浩（産業医大）

客員編集委員：田中紀子（国立国際医療研究センター）、八幡勝也（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番